



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
28

発行日
2012年10月5日

in 東京

2012年度 クリニカルパス教育セミナー参加記

2012.7.21

日本大学薬学部 濃沼政美

まだ梅雨空の残る一橋講堂（東京都千代田区）において、2012年度クリニカルパス教育セミナー（7月21日）が開催された。本セミナーは今回で通算16回目にあたるが、400人以上が受講する人気のセミナーであり、今回も約500名の参加者があった。今回の教育テーマは「これでわかる！できる！クリニカルパス～基本と実践～2012」であり、パスにおけるアウトカムの考え方や電子カルテ移行時の注意点などの基本的事項から、院内パス大会の在り方や地域を含めたがん連携パスに至る実践的な内容まで、まさに幅広く、かつ、充実した内容のセミナーであった。

千葉大学大学院の小林美亜氏による開催概要説明の後、四国がんセンターの船田千秋氏は、「アウトカム志向のパス運用と記録」として、パスは“道具”として、また“システム”として、相互に運用することが医療の質向上に有効であると述べた。また近年、電子カルテの稼働と共にパス数を42種に絞り運用しているが、セットオーダーとしての機能しか活用されていないなどの問題も生じており、今後、有効なデータ収集に基づきフィードバックする機能がパスには重要であることを啓蒙したいとした。済生会熊本病院の副島秀久氏は、「クリニカルパス電子化のポ



イント・落とし穴」として電子クリニカルパスに対する様々な要望事項に対し、電子化のメリット・デメリットについて概説した。特に今度 Ver. 2.0 となる Basic Outcome Master (BOM) については、アウトカムの臨床的重要度を加味し、かつ、DPC データとリンクさせた上でバリエーション分析等に活用することが極めて有効とした。

岩手県立中部病院の北村道彦氏は、「広げようパスの院内活動」として、院内パス大会やパス学会で発表された研究内容を具体例として挙げ、パス大会ではどのようなテーマが相応しいか、また、病院管理者をどのように院内パス活動に導くかなど、明日からでもすぐに取り組めるような実践的な方法について説明があった。また、他施設で行われている良い活動は、速やかに自施設で取り入れることがパス活動を活性化させるコツであるとも述べた。武蔵野赤十字病院の田中良典氏は「どこまで進んだ？がん連携パス」として、武蔵野三鷹地区の地域医療連携を例に、前立腺がん連携パスの有効性について解説があった。この中で、連

▶ 2012年度クリニカルパス教育セミナー参加記
クリニカルパス教育セミナー（大阪）に参加して
リレーエッセイ第22回

携パスで目指すものはあくまでも切れ目ないがん治療であり、この目的を達成するためには、がん専門医ではなく、かかりつけ医の視点で連携パスを構築することが相応しいと述べた。

またディスカッションでは、セミナーに参加された医事職員の方から、どこを押さえてからパスを院内で普及させれば良いのかなどの、実践的な質問が多く出され、教育セミナーを締めくくる上で有益なディスカッションが繰り広げられた。

今後も、本セミナーに多くの実務者が参加することで、パスの質が高まり、結果的に医療の質が向上することが期待される。



in 大阪

クリニカルパス教育セミナー （大阪）に参加して

2012.8.4

関西電力病院 小林妙子

日本クリニカルパス学会主催の「これでわかる！できる！クリニカルパス～基本と実践～2012」に参加しました。セミナーに参加した動機は、クリニカルパス電子化の準備作業にパス委員として携わっており、電子化移行のポイントを学ぶためでした。当院は、400床の急性期病院で、来年5月の新病院開院と共に電子カルテが導入されます。電子パスへの準備作業は、月1回開催されるクリニカルパス委員会での全体討議と並行し、通常業務の合間をぬって、



各病棟のパス委員が診療科の医師と相談しながら現行のクリニカルパスを見直し、入力作業を行っています。

セミナーに参加して、クリニカルパスを使用していく最大の目的は、パスの改善、診療、看護の見直しができることを目標としていることを再認識することができました。さらに、効率的なバリエーション収集のための言語情報の標準化と、概念の整備のために Basic Outcome Master (BOM) を組み込むことの必要性を学ぶことができ、今後の作業に生かしていきたいと思いました。

「電子パス導入でわかったこと」について四国がんセンターの河村 進先生が、「病院のトップマネジメントとしてパスの位置付けを重要視するかどうかで大きな違いが出る」「準備のための人員確保の必要性」などを話されていました。私たちは、手探りの状態でパスの電子化への作業を進めており、病院全体を巻き込むまでには至っていませんので、他施設のクリニカルパス電子化への取り組みの紹介が大変参考になりました。今後は、具体的な手順や効率化などについて、より詳細に知ることができる機会があれば参加し、パスの統計処理はどのように設定するかなど、パスシステム構築に向けて取り組んでいきたいと思います。



また、地域連携パスについての話を伺い、在宅医療へ移行するケースでは特にクリニカルパスの作成や、運用の普及に向けて取り組むことも重要であると感じました。そのためには、それぞれの病院で取り組んでいるクリニカルパスを、周辺病院との連携や密な情報交換ができる体制があれば、お互いの問題点を出し合い、共に改善策を考えることができ、よりよいクリニカルパスができると思いました。

あつという間の4時間でした。暑い中8名のスタッフと参加し、帰り道ではそれ以上に熱く当院のパスについて語り合いました。セミナーを企画・運営していただいた先生方に感謝いたします。



リレーエッセイ 第22回
JTS48とクリニカルパス

トヨタ記念病院 診療情報支援グループ
岡本泰岳

2012年11月17日にパススペシャルセミナー（通称：福井パスペ）が開催されます。このセミナーは福井総合病院パス入門講座 in スパ（パスパ）の開催20回を記念して企画された特別講演会です。パスパに参加し、濃密で有意義な時間を経験した学会員はかなりの数に上るのではないのでしょうか！

今回、光栄なことに福井パスペの講師の1人を選んでいただきました。冒頭のタイトルはこのセミナーにおける私の演題名です。主催者の勝尾先生から「パスと私の関わり」「パスで私の人生がこのように変わりました」といった内容をおもしろおかしくしゃべって欲しいと依頼があり、奇をてらった演題名にしてしまいました（後から他の講演者のまじめな演題名を知って少し後悔！）。JTS48は、人気

アイドルグループであるAKB48を意識していることはバレバレですが、私がパス医療にのめり込んだ（魅了された）大きな3つのきっかけと私の年齢（講師依頼時）を指しており、まさしく「私とクリニカルパス」と置き換えることができるわけです。その3つとは、J：褥瘡、T：トヨタ記念病院、S：副島秀久先生と済生会熊本病院です。

私がパスに関わることになった（私の人生プランが逸れ始めた）のは、褥瘡パスの作成を依頼されたことに始まります。今から14年前の1998年に東海地区でパスに関わる勉強会が開かれ、なぜか？褥瘡治療のパスを作成することが参加病院に課題として出されました。そして当時、形成外科医として褥瘡治療（主に再建手術）に携わっていた私にその役目が回ってきたわけです。気軽な気持ちで引き受けたものの、現在でもその作成と使用が難しいといわれている褥瘡パスを、パスの存在すら知らなかった私が作成に取り掛かったわけですので、その大変さというか無謀さは容易に想像できるでしょう。褥瘡治療の介入プロセスは再建手術だけでなく保存的治療があり、むしろ後者が主体であること、そして看護師さんの日々の観察やケアを抜きには治療が成り立たないことを思い知らされました。そのようなプロセスだからこそパスの作成や実際の使用にあたっては、自然と看護師さんと密に話し合いを持つことになりました。今でこそほとんどの病院にある褥瘡対策チームや褥瘡回診も、当時は管理栄養士さんや理学療法士さんを巻き込んでサークル活動のように楽しみながらはじめたものでした。この時の経験が外科系医師である私に、手術治療プロセスとは異なる内科的治療プロセスの感覚を養わせるとともに、多職種によるチーム医療の大切さを実感することになったわけですが、当時はこれがその後の院内・院外におけるパス活動に大きく役立つことになるとは思いませんでした。

その後、2001年に院内パス活動が大きく変わるようになりました。組織横断的なパス活動の必要性から正式な委員会が発足し、病院方針にパス医療推進が盛り込まれたのです。委員長としての責務、病院方針という後ろ盾、そして2003年に導入された電子カルテ（電子パス）の準備と運用が、パス活動に取り組むモチベーションを高く維持させてくれました。



岡本泰岳 先生

しかしモチベーションが高まる一方で、自信を持って啓発・教育活動（医師に対する教育は、時には説得に似た感じ!?)を行っていくには、パス医療の正しい在り方や基盤となる思想が私自身に必要とを感じるようになり、日々悩んでいました。そんな折、2002年11月に開催された愛知クリニカルパス研究会における副島先生の特別講演で「アウトカム志向のパス」を学ぶことで、霧の中のような視界が一気に開けた感覚を今でもよく覚えています。そして初期の委員会コアメンバーとともに参加した第10回済生会熊本病院のパス大会にも大きな刺激を受け、お手本となる明確な目標もできたのです。

振り返ってみればあつという間の14年です。最近は、多くの先生方から学んだ知識と技術に自分なりの解釈を加えてお話させていただく機会が多くなりました。また7月に発刊された「基礎から学ぶクリニカルパス実践テキスト」（日本クリニカルパス学会学術委員会監修）にも執筆させていただきました。しかし現在、実感として思うことは、パス医療の世界はまだ奥深く、学ぶことの多い魅力ある世界だということです。今後も多くの方々との友好を深めながら、この魅力ある世界の住人であり続けたいと思っています。どうかよろしくお祈りします。

今回は、私にパス教育の重要性とバリエーションに関する知識と技術を伝授してくれた福井総合病院の勝尾信一先生です。

事務局より



第13回 日本クリニカルパス学会学術集会

- 会期：平成24年12月7日（金）、8日（土）
会場：岡山コンベンションセンター（岡山市北区駅元町14-1）
岡山シティミュージアム（岡山市北区駅元町15-1）
テーマ：『実務と学問の融合～企画と運営を通じた学問への誘い～』
会長：若宮俊司（川崎医科大学 眼科学）
事前参加申込期間：平成24年5月7日（月）～11月9日（金）
参加費：事前登録費 8,000円 当日参加費 10,000円
懇親会費：5,000円
プログラム：会長講演、特別講演、教育講演、教育セミナー、シンポジウム、パネルディスカッション、スイーツセミナー、共同企画、特別企画、宿題報告、論文発表、一般講演（口演発表、ポスター発表）、クリニカルパス展示、ランチョンセミナー など
- ※学術集会の詳細に関しては、
<http://www.med-gakkai.org/jscp13> をご覧ください。



お問い合わせ

学術集會事務局：
第13回日本クリニカルパス学会学術集会 学会事務局
事務局長：難波 徹（川崎医科大学附属病院庶務課）
〒701-0192 岡山県倉敷市松島 577
TEL：086-462-1111/FAX：086-462-7897

運営事務局：
第13回日本クリニカルパス学会学術集会 運営事務局
株式会社メッド
〒701-0114 岡山県倉敷市松島 1075-3
TEL：086-463-5344/FAX：086-463-5345
E-mail：jscp13@med-gakkai.org